

現代的・社会的課題を解決しようとする人材を育成するための教員研修モデルの構築 —小中学校社会科を中心としたCM力の養成を中心—

最終更新日：令和2年9月18日

【プロジェクト代表者】
社会科教育ユニット
教授
小田 泰司

キーワード 小中学校教育・カリキュラムマネジメント・教員研修

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

（背景）これからの学校教育では、変化の激しい時代に求められる汎用的な資質・能力の育成に向けて、教科等を横断的に関連づけた学習指導・評価を明らかにすることは喫緊の課題です。

（目的）本研究の目的は、(1)教科等の特性を活かした探究から得られる概念、法則、原理他、知識や技能を有意義に使い、具体的な文脈に立ち向かう課題解決・プロジェクト型の教科等横断的な学習デザイン・評価力について理論と方法を明らかにする、(2)さらに、それらに関する教員養成・研修プログラムを開発し、一般教員及び学生に敷衍することです。

（方法）

- ① 本学附属学校及び研究開発指定の小中学校等で過去に実践された横断学習方略の析出及びそれによる資質・能力の長期的な効果検証のための卒業生への聞き取り調査等
- ② 米国等における多文化学習、主権者学習、サービスマーケティング、STS、SDGs、ESD、STEM等の学習について、カリキュラム内容及び方法としてのプロジェクト学習(PBL)に関する理論と実践の取材
- ③ 「パフォーマンス課題／評価(UbD)」, 「学習のための／としての評価」, プロジェクト学習(PBL)等を基盤とした横断学習デザイン方略事例の開発及びその学部・大学院授業、現職研修のプログラム化
- ④ 開発事例について、大学・大学院での授業実践及び協力自治体(福岡県ならびに県内市町の教育委員会又は教育センター・研究所等)共催の現職研修による効果検証、改善、修正の実施

（結果と意義）同プログラムの開発とその成果を広く全国の教育関係諸機関に敷衍・貢献することは、本学のような教員養成系大学と地元教育行政との連携体制による、資質・能力育成への基盤転換等、現場単独では対応が困難な教育課題の解決モデル構築の範例となります。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

県、市町村の教育委員会、教育研究所、教育センター等の主催による研究会、研修会、さらには、小中学校等での校内研修会、地域の教科等の研修会にご依頼いただき、以下のような研修プログラム内容を提供することができます。（本プロジェクトの基本的な問い）

変化の激しいこれからの時代に求められる汎用的な資質・能力の育成に向け、教科等の特性を活かした知識や技能を使い、「どのように社会・世界と関わっていくか」を具体的な文脈として、課題解決・プロジェクト型の教科等横断的な学習をどのように構想し、評価するのか。

- ① 資質・能力と学力の異同／真正な学びのパフォーマンス課題／クロスカリキュラムと学習評価・ルーブリック／子どもがレリバンスを感じる課題等の先進事例提供及び作成支援
- ② 教科横断的学習の方法／総合的学習を核としたプロジェクト学習(PBL)による方法等の先進事例提供及び作成支援
- ③ 小・中学校における教科等横断的な学習事例と方法／コミュニティ・スクール機能の活用／真正な学びプランの先進事例提供及び作成支援
- ④ 教科横断的学習にこだわらず、新教育課程における「資質・能力の育成」(目的)及びそのための「主体的・対話的・深い学び」(方法)の授業改善等に関する、基本的、具体的な解説等

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

- 平成31年度科研費獲得推進支援プロジェクト
(代表:小田泰司)
- 平成30令和元、2年度教育総合研究所研究プロジェクト
(代表:豊嶋啓司)
- 令和2～5年度科学研究費助成事業(補助金(基盤研究(B)))課題番号 20H01684
(代表:豊嶋啓司)

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

- 福岡教育大学 教育学部・教授 小田泰司・社会科・米国他
- 福岡教育大学 教育学部・教授 石丸哲史・地理・ESD他
- 福岡教育大学 教職大学院・教授 芋生修一・道德他
- 福岡教育大学 教職大学院・准教授 坂井清隆・総合他
- 福岡教育大学 教育学部・教授・豊嶋啓司・方法・社会科他
- 福岡教育大学 教育学部・非常勤講師・木下祥一・PBL他
- 附属福岡小学校・教諭・齋藤 淳／井手 司・初等実践
- 附属小倉中学校・教諭・柴田康弘・中等実践・社会・SDGs